

横浜市 麻しん流行情報 3号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

麻しん患者の報告が増えています。

- ◆ 2015年に日本が麻しん排除国に認定されてから、海外で麻しん(はしか)に感染して国内で発病する事例は報告されていましたが、4月以降、**海外渡航歴のない感染経路不明の麻しん感染が増加しており、その麻しん患者との接触による感染の報告も続いています。**
- ◆ 麻しんは非常に感染力が強く、その予防には**2回の予防接種が必要です。麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)を確実に接種しましょう。**
- ◆ 感染が疑われる際は、**必ず医療機関に事前に電話連絡の上、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて、早めに受診しましょう。**

1 麻しん(はしか)とは？

感染経路は空気感染、飛沫感染や接触感染など様々で、感染力はとても強く、免疫がない人が感染するとほぼ100%発症します。潜伏期間は10~12日ほどで、熱やせき、鼻水など、風邪のような症状が出て、数日すると38℃以上の高熱と、全身の赤い発しんが出現します。肺炎や脳炎などの合併症を併発すると、時に命に関わることもあります。

熱やせきなどの症状が出現する1日前(発しん出現の3~5日前)から発しん出現後4~5日(または解熱後3日)くらいまで、周りの人に感染させる力があります。感染拡大防止のため、なるべく外出を控えるなどの行動の注意が必要です。

- ◆ 参考：[麻しんについて\(国立感染症研究所\)](#) [麻しん・風しんについて\(横浜市保健所\)](#)

2 海外渡航歴のない麻しん患者(検査診断例)発生状況(市内感染症発生動向調査:2019年6月5日現在)

前号までに掲載した海外渡航歴のない患者12名に加え、新たに8名の報告(海外渡航歴なし7名、あり1名)がありました。

8名のうち5名は患者との接触が確認されていた事例でしたが、その他3名は麻しん患者との接触が明らかではありませんでした。患者と接触が明らかでない場合であっても、症状に充分ご注意ください。

症状が現れた場合は、必ず医療機関へ事前に電話連絡の上、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて、早めに受診してください。

| | 発病日 | 年齢 | 患者との接触 |
|----|-----------------|------|--------|
| 13 | 5月20日 ~5月26日 | 30歳代 | 不明 |
| 14 | | 30歳代 | あり |
| 15 | | 30歳代 | あり |
| 16 | | 20歳代 | あり |
| 17 | | 20歳代 | 不明 |
| 18 | | 30歳代 | 不明 |
| 19 | | 20歳代 | あり |
| 20 | 5月27日 ~6月2日 | 30歳代 | あり |

3 予防接種について

麻しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。

現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MRワクチン)を2回接種します。

【標準的な接種期間】 1期:1歳以上2歳未満 2期:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

- ◆ 参考：[麻しん風しん予防接種について\(横浜市保健所\)](#)